

平成30年度

# 秋田県立博物館 調査研究報告会

平成31年3月16日（土）13:30～16:50

（開場 12:30）

会場：秋田県生涯学習センター3階講堂

入場無料 申込受付中（当日申込可）

工芸部門 齋藤知佳子

「浅舞絞りの染めと文様」

真澄部門 角崎大

「真澄が記録したアイヌ」

歴史部門 新堀道生

「『足栗毛』に盗用疑惑？—広重作品の画像利用—」

民俗部門 丸谷仁美

「阿仁マタギの行商用具について

～明治から昭和初期までの記録～

歴史部門 佐藤隆

「秋田の中世における資料を使った郷土学習について」

生物部門 船木信一

「森吉山鳥獣保護区特別保護地区における

クマゲラの生態」



会場案内

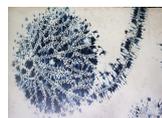


※ 秋田県立博物館の学芸職員が平成30年度に行った調査研究の成果を報告します。お気軽にお越しください。

※ 駐車場に限りがありますので、なるべく公共機関をご利用ください。



## 各報告の概要



### 齋藤報告 「浅舞絞りの染めと文様」

明治の初め頃、浅舞の盆踊りの音頭の地口に「浅舞名物、絞り手拭い、切り煙草」と唄われた浅舞絞りは、県南においては広く知れ渡ったものである。現在染織家として活躍してる安藤宏子氏は、この浅舞絞りについて「名古屋の有松・鳴海から伝わり秋田の風土で生まれ洗練されて浅舞絞りの特徴をもつようになっていった。」と紹介している。今回は、縫い絞りの仕方と模様の表れ方を明らかにしながらその特徴の考察を試みる。

### 角崎報告 「真澄が記録したアイヌ」

菅江真澄は天明8年(1788)に蝦夷地(現在の北海道)に渡り、アイヌに関する記録を残した。真澄の記録には、アイヌ特有の衣服や用具が描かれ、真澄が実際に見聞きした彼らの生活に関する詳細な内容が記されている。それらを紐解き、2018年現在残されているアイヌの実物資料と照らし合わせながら、一考察を述べたい。

### 新堀報告 「『足栗毛』に盗用疑惑?—広重作品の画像利用—」

「足栗毛」(幕末、作者不詳)は羽州街道の沿道風景を描いた画帖である。山・川などは実態に即して描かれているが、人物や狂歌等は歌川広重や十返舎一九の作品から多数が転用されている。作者を「ある主人」という架空の人物とし、木版画をまねた匡郭を描くなど、「足栗毛」はきわめて遊戯的な態度で制作された作品である。

### 丸谷報告 「阿仁マタギの行商用具について~明治から昭和初期までの記録~」

重要有形民俗文化財「阿仁マタギの狩猟用具」の中に、北秋田市阿仁根子で明治末期から平成まで、親子三代にわたって使われてきた薬の行商用具がある。行李の中には販売した薬のほか、薬を販売した懸帳簿の綴りが残されている。今回は、明治38年から昭和18年までのおよそ560件の顧客の記録から、販売した薬や行商範囲、行商期間などについて考察を試みる。

### 佐藤報告 「秋田の中世における資料を使った郷土学習について」

秋田県内の高校日本史の授業で、資料を使った郷土学習はほとんど行われていない。全国の中で秋田はどのような意味を持ったのか。中世、特に戦国時代の秋田について資料を使った郷土学習の試案を提示する。そのうち、今回は戦国大名について、織田信長の伝記である『信長公記』をもとに、具体的な姿の一端を示してみる。

### 船木報告 「森吉山鳥獣保護区特別保護地区におけるクマゲラの生態」

森吉山に生息する天然記念物クマゲラの生態を40年に亘って調査した。本報告会では、繁殖の実態や絶滅に瀕している現状、図鑑やWeb上での報告がない音声や個体数が少ないが故に今後の調査が待たれるいくつかのトピックスについて報告する。



## お申し込み・お問い合わせ先 秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

TEL 018-865-1171

Fax 018-824-1799

当日申し込みも可能です。

